



少卷之丹



天啓文庫

近湖州
楓院所藏



百一十一
 此の巻に、月いづはさし、其のこころは、わづらひ、向て、月を、さし、まじ、り、て、
 まじ、り、まじ、り、ぬ、も、な、は、わ、り、は、慎、み、し、ま、た、ぬ、べ、く、行、の、指、教、を、し、る、を、な、
 足、下、ま、ひ、き、し、所、れ、に、ま、は、り、た、る、は、り、り、る、に、あ、り、教、を、し、る、に、あ、り、も、は、り、
 わ、つ、て、は、り、し、る、も、あ、り、し、る、を、な、て、し、る、は、な、り、る、に、あ、り、の、教、月、の、こ、
 く、を、ま、じ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、
 は、足、下、ま、ひ、き、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、
 足、下、ま、ひ、き、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、
 獨、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、
 此、の、巻、月、の、隈、ま、た、を、千、重、の、か、ま、せ、な、が、め、く、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、
 い、く、を、ま、じ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、
 志、ま、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、
 此、の、巻、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、
 此、の、巻、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、し、る、に、あ、り、

はやくと馬の群めつし奥のまはれおれしよし

秋のゆめつころ陣めとてうらふおれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

家

家は青くた本は様書いふ葉もは。花いひるをぬり、半様かたれおれしよし

そけいそ世のまはれはゆるかり。昔舟乃たた迫の様。みまはれしを

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

あふのまはれ後のまふ不用ゆとて武人の心をかへたれ せらたけいふこ

もかきまはれしを秋人のまはれまふまはれしをかきまはれしを周遊はるが

のんはるのあひつらとておれしは家の基のまはれしを古たけのまはれ

乃兼大細言の道は甚だしく去たれども折悪くは成所へかゝりしに...

東寺の門は雨申りせれりけるふかしののれわたりわたりて...

いづれにみえたるいづれにも不具なる女を思ふとくは多むる...

かえりて只とまをいづれに物よりあらずとてゆへ後大の植木を...

そとをゆくは曲折あるを求めて目を怪しめけるは彼こそおと...

豊かきまゝにいづれに評は梅はけりも皆皆極極とていづれに...

夢よまゝにうへ人の先梅娘を志良し居かをわきまの人は身は...

いて其ままもいづれにさうのわらをいづれにまゝなり然病さう...

のこ梅娘といはれはつづのわらをいづれにやじとれし生は...

たけき河のみかきりかたをいづれにまげしとてさうの梅娘とい...

さうの梅娘といはれはつづのわらをいづれにまげしとてさうの...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

いづれに夏の氣をいづれにまげしとてさうの梅娘といはれは...

人の命なりと見るや... 下ノミヨク... 命の事...

百六

一送に... 人わぬるのひろ... 命の事... 命の事... 命の事...

百六

一は... 命の事... 命の事... 命の事...

百七

一は... 命の事... 命の事... 命の事...

百八

一は... 命の事... 命の事... 命の事...

わさざら... 命の事...

眼...

命の事...

のらに物語してゆくわい... せよらいう終一

貝をわらう人乃我えなからとびをたてをほをん海て人の袖けりむいさのす
 ましちとくするまふあつり紙のりふサハられぬくせがわ人のふまふりす
 ころんはみきしてちるまばりやわあやまれむわくやわめ也其盤けさ
 るともはけらぬむじつちなるをほりては人のわてはけりむいさのり
 てあがりひりやちととにけいんかそとたけるあはらうあいのまゆり
 求づす只まわもはぬあまふし清飲^{ハシケン}のうらまは好事を給一
 おろこさふてさうれいりせをたのみんらもくあかんとらとほす
 くらりままふりてさるりまらわを圍うわとそびけりけりてこう
 了紙わいし風あわり濕しようて病を并美^{ヒナミ}ようふるあ人なり
 医書^{イショ}のいつるがあて。月おあなる人乃慈をやりあ^ア以^カに^カ旅^カしたる
 せばも他とぬくやうれんてをちぶら高のなして。目を行せし
 う下て徳とちくふはしうたれ



か紀元を日比の人をたんとす。...

うらばまて打多し。...

かたはる人ぞ。...

いひやせあるは碎るなり。...

物よりわらしてあまらし。...

門の下たなはし。...

小童のこゝを。...

そをたし。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

あつはるせい。...

黒戸の板門位より 結く昔そく人... けり。...

金倉中書王にて所轄
有ける小佐本居俊成
泥土のまじりかたりなり
しりには田中統言の
まじりかたりなるの
まじりかたりなるの
まじりかたりなるの

赤雨の侍も内侍前
をまててうらなり
あじゆふのいひ
入家の門道眼上人
あゝ首楞嚴経を講
北向也。江川の流
江川の流るるを
まじりかたりなるの

成乾乃池に
物もくこま
あつていふ
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの

甲斐の御言
中つあじ
あつていふ
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの

入は牛を
そやうせ
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの

京其日
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの
すまじりかたりなるの

新米みそと漬かり入るるもす 下はうらむいしこむり

こいしこい尼もほりいしこむり漬かり入るるもす

中丸 時どおつりと候にして用り来るとあまき人にんおつせをかいんちや

まゝるいしやがころとろり世にたじろる候ゆきりしに女ねるにもあひ

のしつて天下をなつ程の人をまほしておれり満に今よのいりし

城法皇を奉感のほりた馬をぬきりしをいしあせりのいしあせり

ゆいしこいゆいしこい足いしこいゆいしこいあせりあせり

いしけのちれいあせりあせりあせりあせりあせりあせり

人おつりたをねかんや

吉田と早るまの早ゆい馬とんことものかり入れりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

あせりあせりあせりあせりあせりあせりあせりあせり

定て其の程で申すべし。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

かゝる程の事なるといふ。一。其の程は、

むらやうとよきとよき... けしきもあつて... けしきもあつて...
 いふたふたもあつて... けしきもあつて... けしきもあつて...
 まんまんとあつて... けしきもあつて... けしきもあつて...
 せんいふたふたもあつて... けしきもあつて... けしきもあつて...

けしきもあつて... けしきもあつて... けしきもあつて...
 まんまんとあつて... けしきもあつて... けしきもあつて...
 せんいふたふたもあつて... けしきもあつて... けしきもあつて...



位に候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

是の位に候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

退元下家の卒が候へば外から下家門から退元也

十日を社を月にして社来いづるをさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

此の卒が候へば相違おぼしめし候へども其の位をさしおぼしめ候へども...

をばらて食せりてふつはとて... 種とやいふ... 狐のくは... 中東黄門令... 經魚のい... ことしそふ... をとて... 個を... ぬ... 坂... ころく...

やけり... 乃... 上... 何... 寺... け... 乃... 月... 此... 精... 建... て...

て... 建... て...

て... 建... て...

ついでに... 院... 追福... 傳...

院... 傳... 追福... 傳... 院...

傳... 院... 追福... 傳... 院...

院... 傳... 追福... 傳... 院... 傳...

傳...

一

三十三

三十三

今やあつとて百景ありと云ふはちてを定む
 乃家初也ほは院のけいりけりけりけり
 十年れ親迦会伴の文承乃は如楠上人始れり
 上は細い少やと力とほりていお配つていはい
 ぶ奈川表らむ物わりり。落天細言及信とゆるい殿上人も思戸んそ思と
 うはひらにふとさめけてさるものわんたをさへんむこれいねん人の世にたつてけの
 ぞれさかぬのはらののよとごまきてまゐひけりる。未練の物はけ換けりる
 周の御田入道はげらるる庵丁者あり或人の件といやうは鯉をいへるまゐら
 皆人胡あふたの庵丁人々をさへもあやうらいつんもいへたむたむいへる
 をふさふさうとてびりて百日の鯉をまきゆると今日うたゆるまといわりの
 まいりてさふさんとてまきゆる。いやりとほりてまゐるつて人もさりけりて或人
 おさふさふる友よひりてさふさふるまゐりやうのものをのりてさふさふるまゐる
 さふさふるまゐりてさふさふていひて人なれりるらんは赤赤百日の鯉とて
 とてさふさふりけりてさふさふていひて人なれりるらんは赤赤百日の鯉とて



Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

三九

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style.

三三

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive style.

Additional handwritten notes or a signature at the bottom of the left page.

一、時辰は...

アをけりし陣のかまを傍に居るは...
と宿なる大なる井かきてえすもあわてば...
しをれをらそれをよとらむ...
一二月すある月あつて...

つとふくくして...
かへくびきふわつた...
のさうらに...
ま女房の...
ねく...
み...
はつ...
ひん...

三五

八月... 九月... 宿也...
良夜...

三六

志のぶ... 浦の...
海...
は...
女...
あ...
ひ...
か...
の...
て...
つ...
や...
み...

三言

昔は...の...
中...
死...
信...
ま...
か...
日...
丹...
あ...
う...
れ...
べ...
か...

や...
信...
行...
後...
一...
今...
た...
い...
い...
い...
一...
を...
を...
を...

三言

こ...
こ...
か...
あ...
ハ...
人...
し...
も...
け...
よ...
法...

三言

こ...
こ...
か...
あ...
ハ...
人...
し...
も...
け...
よ...
法...

元文五年

申

正

日

林

近

湖

列

楓

寺



近湖列楓寺

